

「災害体験談感想文 北裡地区が全滅」

防災・減災のために大切な「学び」

城辺小学校 五年 藤本 和真

「堤防が崩れ、土石流が押し寄せ、北裡地区が全滅」
 「田んぼは全部川原のようになって」
 「たった一つの僧都橋も流されて」
 昭和十八年の城辺小学校区の中尾さんの水害体験談。軒下まで水に浸かっている当時の写真もあった。「こわい！」
 ぼくが住んでいる地区にこんな災害があったことを初めて知ったときのドキドキ感は、これまでにないものだった。毎日当たり前に見ている僧都川とその堤防が大雨によって大きな水害を引き起こした過去の出来事が、こんなに強く心に残るのは、ぼくたち五年生が、地域を歩き、地域を知り、災害から命を守る防災学習に取り組んでいるからだ。「記録的大雨で鬼怒川の堤防決かい。大規模な浸水被害」
 昭和十八年の水害とよく似た昨年の九月の茨城県の大規模浸水のニュースを、ぼくは何気なく見ていたような気がする。過去の災害から、また、他

の地域の災害から学ぶことの大切さが、今な
ら分かる。
「施設を見学させていただけたいのですが。」
「防災の備えについて、お話をお聞きしたい
のですが、伺ってもよろしいでしょうか。」
フィールドワークだけでは分からないことを
知りたくて、自分から電話をかけ、これまで
の活動や学習を広げた。校区には災害時に役
立ついい『もの』『ひと』がたくさんあるこ
とが分かった。思いも知った。非常事態にな
った場合の助け合い（その心）が大切だとい
うことを改めて感じた。
新しく避難場所となった役場の屋上から、
校区とそこをゆったりと流れる僧都川を見下
ろした。その先には、津波が押し寄せてくる
御荘湾も見える。いざというとき、どう判断
してどう行動するか。普段から『互助・共助
を意識し、災害時には進んで声をかけ合い助
け合って、大切な命を守りたい。』